

意見提出元	KDDI株式会社
-------	----------

意見項目	意見内容
(1)ワイヤレスブロードバンドの今後の展望(2015年ごろや2020年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージ等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワイヤレスブロードバンドサービスの利用形態は、PC インターネットのアプリケーションが携帯環境へシフトし、携帯電話と PC との融合が一層進むものと予想します。</li> <li>これらが加速する環境として、スマートフォンの台頭をはじめとする携帯電話端末の進化やデータ料金定額制の普及、大容量コンテンツを提供するコンテンツプロバイダ、最近では利用者が自ら制作し提供する CGM/UGC の出現が挙げられます。</li> <li>また、固定と移動の融合 (FMC) やネットワークのクラウド化は、高機能モバイル端末の普及と相まってデータ通信トラフィックを急増させており、その予測はこれまで以上に難しくなっています。</li> </ul>
(2)ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題(周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備)	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話と PC との融合やクラウド化が進むことで、携帯電話のトラフィックは今後も増大が続くものと予想され、当社では EVDO 方式のマルチキャリア化や LTE 方式の導入による既存周波数の有効利用を図ることでありますが、2015 年ごろには新たな周波数が必要になると予想しております。</li> <li>さらに2010年台後半には、トラフィック需要に備え IMT-Advanced の導入を目指したより広帯域なワイヤレスブロードバンド用周波数帯の確保が必要になると考えています。周波数再編アクションプラン(平成22年2月改定版)に示されている 3GHz 帯～4GHz 帯の移動通信システム用への周波数割当てに向けて、技術基準の策定、共用方策の検討等を推進していただくことを希望します。</li> <li>これら新たな技術を導入するワイヤレスブロードバンド環境の整備にあたっては、基地局等のインフラ構築と新端末普及の時期を考慮した周波数割当てや免許方針の策定となることを希望します。</li> </ul>
(3)関連する国内外の動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の携帯電話用 800MHz 帯については、周波数割当て方針に従い既存の携帯電話事業者らが自らの努力で周波数再編事業を進めてきました。この結果、再編後の 800MHz 帯は国際ハーモナイズを考慮した周波数配置となります。</li> <li>一方、地上波 TV 放送のデジタル化に伴う UHF 帯の周波数再編は世界的に進められており、日本における新たな周波数の割当てにあたっては、800MHz 帯と同様に国際的な周波数ハーモナイズを考慮することで産業競争力が高まると考えます。</li> </ul>
(4)その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	なし。

以上